

古代文字資料館蔵ウィマ・カドフィセス発行銅貨
—銘文について—

吉池孝一

1. はじめに

古代文字資料館には、クシャン朝の王、ウィマ・カドフィセス（在位は一説に紀元後120-143年。カニシカ王の父親）¹発行の銅貨が複数枚ある。そのうち前回は図像が明瞭な銅貨を紹介した。表の図像はふつう王が拜火壇に手をかざしていると思われるが、移動式の小型拜火壇（火桶のようなもの）を手から吊るしているように見えるということについて述べた。今回は銘文が明瞭な銅貨を紹介する。この銅貨の重さは16.48g、径29.5mm、厚さ3mm。明瞭な銘文をもつ銅貨は少ないが、田辺勝美編(1992)『平山コレクション シルクロードのコイン』の175頁に同種の銅貨で比較的鮮明な銘文をもつ銅貨の写真があり参照した。

本稿ではギリシア語銘文に王名の属格が使用されないこと、貨幣と仏教文書のガンダーラ語に相違があること、本貨幣が銘文よりみて贋作の可能性が有ることなどについて述べる。

2. 表の銘文



¹ 在位年は小谷仲男(2003:212)による。

王の立像の周囲にギリシア文字で書いたギリシア語の銘文がある。1時の位置より時計回りに *basileys*(王。単数主格)、*basileōn*(諸王の。複数属格)、*sōtēr*(救済者。単数主格)、*megas*(大いなる。形容詞単数主格)、*ooēmokadphisēs*(ウイマ・カドフィセス。単数主格)とある²。全体で『諸王の王。偉大なる救済者。ウイマ・カドフィセス』ともなろうか。貨幣の銘文に王名の属格(～の)を使用するのは、マケドニアのアレクサンドロス王の父フィリッポス以来の伝統として、アレクサンドロスの東方遠征とともに広まったもので、中央アジア・インド西北のバクトリア王国(グレコ・バクトリア朝、インド・グreek朝)、インド・スキタイ朝に受け継がれた。しかしながら、クシャン朝に至って、ギリシア文字ギリシア語の銘文については、王名の属格が使用されないものも現れるようになった。今回紹介したウイマ・カドフィセスの貨幣もそのうちの一つである。

3. 裏の銘文



牛と神の立像の周囲にカローシュティー文字で書いたガンダーラ語の銘文がある。カローシュティー文字のローマ字への翻字は Glass, A. (2000)によった。銘文は、1時の位置より反時計回りに、*maharajasa*(大王の)、*rajadirajasa*(諸王の)、*sarva*(全) *loga*(世界)、**[i]** *śvarasa*(支配者の)、*mahiśvarasa*(大地の主の)、*vimakathpiśasa*(ウイマ・カドフィセスの)、**[? tratara]**(救済者)とある。全体で『諸王の王(の)、全世界の支配者(の)、大地の主たる救済者。ウイマ・カドフィセスの』ともなろうか。もっとも、*sarvaloga*(全世界)と *iśvarasa*(支配者の)

² 格の曲用については田中美知太郎・松平千秋(1970)を参照した。

の文法関係についてはよく分からないところがある、とりあえず既存の訳により『全世界の支配者(の)』としておいた。ガンダーラ語の名詞 *sarvaloga*、*iśvara*、*mahiśvara* とほぼ同形の語が荻原雲来・辻直四郎『漢訳対照 梵和大辞典』(新文豊出版公司、1979年影印)にサンスクリット語形として登録されている(本稿の第5節を参照)。それにガンダーラ語の属格語尾 *-sa* を付して訳した³。なお、田辺勝美編(1992)の貨幣には銘文の最後に *tratara*(救済者)とあることを確認できるわけであるが、本貨幣には3文字分のスペースがないように見える。そこで「？」としておいた。

4. 王名の属格

表のギリシア語の王名は属格ではなく主格となっている。裏のガンダーラ語の王名は属格でありマケドニアの貨幣以来の伝統を受け継いでいる。両者に違いがある。どうしてこのような違いが生じたのであろうか。

クシャン朝の貨幣とされるものの中に、王名がなく、ギリシア文字・ギリシア語で “*sōtēr megas*(大いなる救済者)” と銘打たれたものがある。初期においてはどの王に属すものか諸説あったが、Sims-Williams, N. & J. Cribb (1996:99)の中において Cribb 氏は、クシャン朝の初代の王とされるクジュラ・カドフィセス王と第三代のウィマ・カドフィセス王の間の王、すなわち第二代のウィマ・タクト王の貨幣であるとした。さらに Cribb 氏は、第三代のウィマ・カドフィセスの貨幣銘文は、第二代の “*sōtēr megas*(大いなる救済者)” 貨幣の銘文の影響を受けているという⁴。具体的にどのような影響を受けているか当該の論文には明示されないけれども、ウィマ・カドフィセスのギリシア文字・ギリシア語の銘文で属格形が使用されず『諸王の王。偉大なる救済者。ウィマ・カドフィセス』とあるところが、“*sōtēr megas*(大いなる救済者)” 貨幣の影響と考えてよい。ウィマ・カドフィセスは、“*sōtēr megas*” という銘文を前代より形式的に引き継ぎ、王名もそれに合わせて主格として付したのであろう。

それに対して、カローシュティー文字・ガンダーラ語の方は、これまでの伝統にのっとり王名の属格を用いたのである。もっとも、ガンダーラ語銘文の最後の *tratara*(救済者)であるが、属格語尾 *-sa* が付されていないのは、表のギリシア文字・ギリシア語で *sōtēr*(救済者。主格)とあるのを受けた表現であらう。

5. 貨幣と文書のガンダーラ語

Salomon, R. (2008) は、大英図書館に所蔵されているガンダーラ語の仏教文書

³ 格語尾は Salomon, R. (2008:133)を参照した。

⁴ “After the coins of the *Soter Megas* types the next issue consists of the coins in the name of Vima II Kadphises. They copy the script styles and part of the inscriptions of the *Soter Megas* coins;” (p.99)

断片 (Anavatapta-gāthā. 漢訳は五百弟子自説本起経) の研究書である。この手写文書は紀元後のはじめの数世紀にガンダーラ地方で書かれたものという⁵。ウィマ・カドフィセスの在位は紀元後 120-143 年頃であるから、両者に地域と年代において大きな差はない。つぎに貨幣と仏教文書のガンダーラ語、及びサンスクリット (Skt.) を比べてみた。なおサンスクリットは『漢訳対照 梵和大辞典』によった。

貨幣	仏教文書	Skt.
1. maharaja(大王)	maha(great), raya(king)	mahārāja(大王)
2. sarvaloga(全世界)	sarva(all), lughā(world)	sarvaloka(全世界)
3. īśvara(支配者)	īśpare(master)	īśvara(支配者)
4. mahīśvara(大地の主)		mahīśvara(大地の主)
5. tratara(救済者)		trātṛ(保護者、救助者)

貨幣と仏教文書が対応する語は 3 語ある。1 の「王」に相当する語をみると、貨幣 raja—仏教文書 raya—Skt. rāja とある。2 の「世界」に相当する語をみると、貨幣 loga—仏教文書 lughā—Skt. loka とある。3 の「支配者」に相当する語をみると、貨幣 īśvara—仏教文書 īśpare—Skt. īśvara とある。これによると、貨幣銘文のガンダーラ語と仏教文書のガンダーラ語とでは異なる部分がある。貨幣のガンダーラ語は、仏教文書のガンダーラ語よりも、Skt. (サンスクリット) に近似している。当該の仏教文書とウィマ・カドフィセス (在位紀元後 120-143 年頃) の貨幣が、地域と年代に大きな差はないことを認めてよいならば、両者の相違は何によるのであろうか。おそらく、貨幣銘文のガンダーラ語は規範化されたやや古めかしいものを引き継いでおり、このことによって両者の相違が生じているのであろう。

6. 当該貨幣の真贋について

以上ウィマ・カドフィセス発行の銅貨の銘文を確認した。同類の貨幣は多数あり拓本や写真で公にされている。それぞれ個別の貨幣に欠落があったとしても、互いに参照して完全な銘文を復元することができる。これは貨幣銘文の利点である。もっとも、貨幣には贋作が紛れ込むので注意しなければならない。今回紹介した貨幣であるが、その裏のガンダーラ語の銘文には、īśvarasa(支配者

⁵ “It is by now a matter of common knowledge among scholars in the field of Buddhist textual studies that in recent years several dozen manuscripts in the Gāndhārī language and Kharoṣṭhī script have come to light, and that these manuscripts, written in the first few centuries A.D. in the ancient region of Gāndhāra (modern eastern Afghanistan and northwestern Pakistan), are the earliest surviving written records of Buddhism.” (Preface XIV)

の)の語根 *is*(支配する)の「i」がない。そのことを考慮するならば、贋作の可能性があると看做ざるをえない。もっとも仮に贋作であるとして、クシャン朝当時の贋作であるか、それとも近代の贋作であるか、それを明らかにするのは容易ではない。

【参考文献（発行年順）】

グプタ, P.L. 著(1969)、山崎元一他訳(2001)『インド貨幣史 ―古代から現代まで』刀水書房。

田中美知太郎、松平千秋(1970)『ギリシア語入門 改訂版』岩波書店。もと 1951 年。

渡邊 弘(1973)『西域の古代貨幣』学習研究社。

荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』（新文豊出版公司、1979 年影印）。

Göbl, R.(1984)*System und Chronologie der Münzprägung des Kušānreiches*.Wien.

田辺勝美編(1992)『平山コレクション シルクロードのコイン』講談社。

Sims-Williams, N. & J. Cribb (1996) “A New Bactrian Inscription of Kanishka the Great”, *Silk Road Art and Archaeology* 4, 75-142.

Glass, A.(2000) *A Preliminary Study of Kharoṣṭhī Manuscript Paleography*. web上に公開されていたものによる。(http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass_2000.pdf)

小谷仲男(2003)「クシャン族とガンダーラ仏教」、『NHK スペシャル文明の道 ②ヘレニズムと仏教』日本放送出版協会, 200-225 頁。

Salomon, R. (2008) *Two Gāndhārī Manuscripts of the Songs of Lake Anavatapta (Anavatapta-gāthā)*, University of Washington Press.